

母子保健指導者養成研修  
(母子保健事業の効果的な実施に関する研修)

災害時の母子保健活動(平時にできる備え)  
～令和2年7月豪雨災害の経験から～

熊本県人吉市役所 健康福祉部

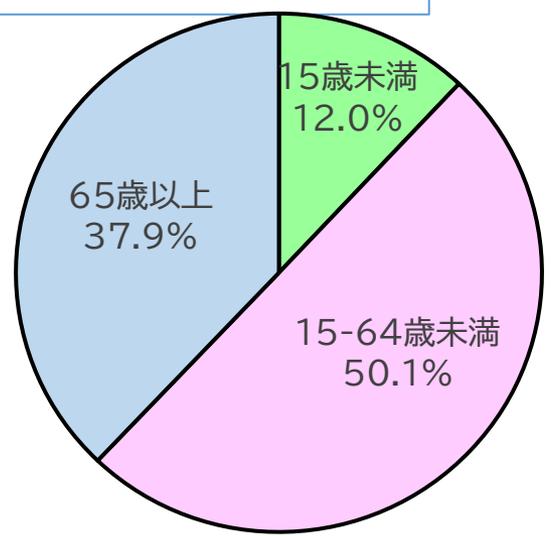
保健センター一次長 上薮 眞由美

# 熊本県人吉市の概要

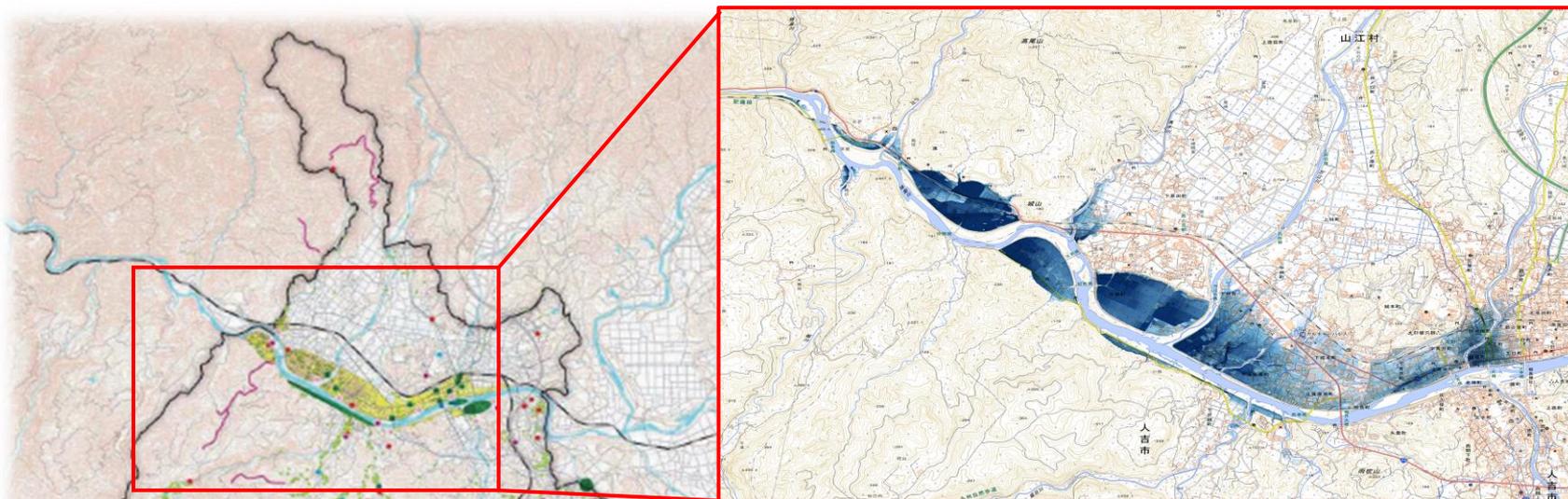


- ・熊本県の南部に位置
- ・九州山地の連山に囲まれた盆地
- ・市域面積: 210.55km<sup>2</sup>
- ・市の中央部を球磨川が西に向かって貫流  
更に、南北から多くの支流が本流である球磨川に注ぎこむ
- ・気候は寒暖差が激しく、濃霧がよく発生
- ・年平均気温: 15.6℃
- ・年間降雨量: 2361.5mm (H29年)

国勢調査(R2年度)  
31,108人  
(13,288世帯)  
  
出生数209人



# 令和2年7月豪雨 被災状況



出典：国土交通省



図-1.5.5(3) アメダス人吉地点の時間雨量曲線

出典：令和2年7月豪雨 人吉市災害記録・検証誌

# 令和2年7月豪雨 被害状況

人的被害	死者 (災害関連死含む)	21人
	負傷者	17人
住家被害	全壊	1,088世帯
	大規模半壊	858世帯
	半壊	1,045世帯
	一部破損	407世帯
	計	3,398世帯

(令和4年6月30日現在)

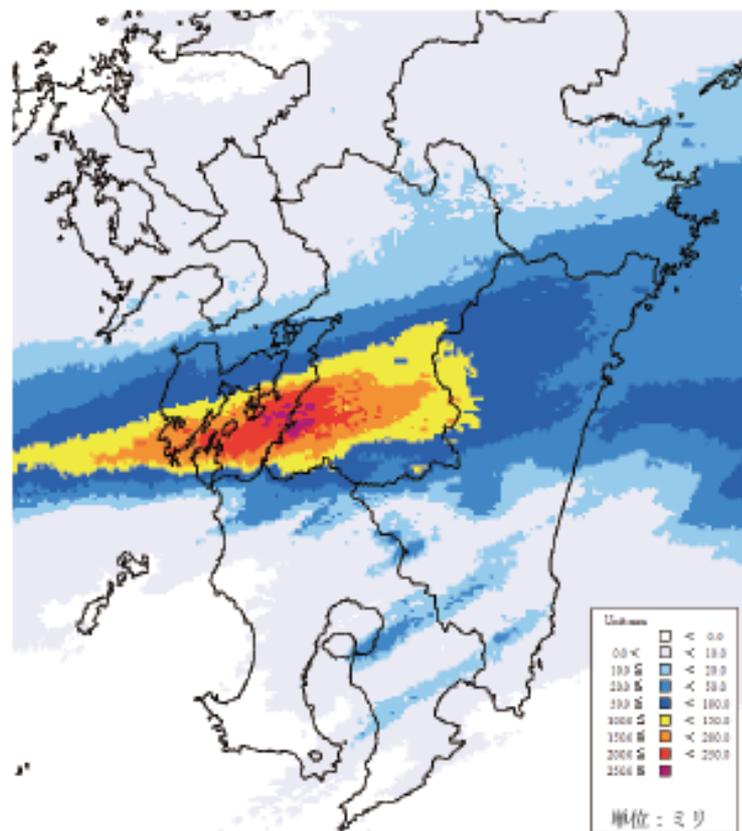


図-1.7.6 大雨特別警報発表直後の3時間雨量(7月4日午前5時)<sup>8)</sup>

# 被災後の様子①

【 住宅地 】



出典：九州地方整備局

【 人吉駅前 】



【 壊れた西瀬橋 】



出典：広報ひとよし

# 被災後の様子②

【自宅2階から撮影：  
逃げ遅れ、水が引くまで自宅で過ごす】



出典：市職員

【水が引いた後の自宅内と屋外】



# 本日の内容

①体制づくり

②行政機関としての備え(公助)

③平時の備え(自助)

# 保健師の動き

フェーズ	フェーズ0		フェーズ1
日数	24時間以内		72時間以内
月日	7月4日		7月5～6日
市保健師等 医療班の 体制	医療班班長:救護部本部にて状況把握と指示		医療班班長:状況把握と指示 7/5～外部調整・受援準備
	6:00	A避難所に2名、B避難所へ1名 保健師配置	① 8:30～ 20:30 ②20:30～翌8:30  A避難所:2名 B避難所:1名 C避難所:1名  計8名で 2交代勤務
9:30	C避難所に1名保健師配置		
15:30	D避難所に1名保健師配置		
19:00	夜間対応として、A・B・C避難所へ それぞれ1名ずつ保健師配置		
苦慮した こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者が次々と来られるため、目先の対応に追われた。また、要援護者(妊婦等)の把握が困難であった</li> <li>・着の身着のまま避難されるため、ミルクなどがない</li> <li>・産科医療機関被災し、緊急時対応が困難</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染予防対策もあり、対応に不安</li> <li>・想定より妊産婦、乳幼児が避難していない</li> <li>・避難所日報(避難所状況、避難者情報)などの存在を知らなかった</li> </ul>

# 保健師の動き

フェーズ	フェーズ2	
日数	4日～1・2週間	
月日	7月7日～7月17日	
市保健師等 医療班の 体制	医療班班長:外部機関・受援等調整 (課長・主幹級以上3名の計4名体制)	
	① 8:30～20:30 ② 20:30～翌8:30  A避難所:2名 B避難所:1名 計8名で C避難所:1名 2交代勤務(～7/10)	(7/11～) A避難所:日中・2名、夜間1名  ・通常業務再開に向け、保健センター勤務 ・災害時要援護者の名簿抽出 ・交代で休暇取得
苦慮したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週明け(7/6)以降、母子健康手帳や予防接種予診票の再発行希望や問合せが急増した</li> <li>・発災から1週間は避難所にて対応をしていたため、要援護者(妊産婦)の安否確認ができなかった</li> <li>・乳幼児健診や相談など、母子保健事業はほとんど延期せざるを得なかった(被災前から、コロナ感染予防のため、事業を中止していた)</li> <li>・電話回線は不安定、郵便局も被災し、お知らせなどの連絡手段が限られた</li> </ul>	

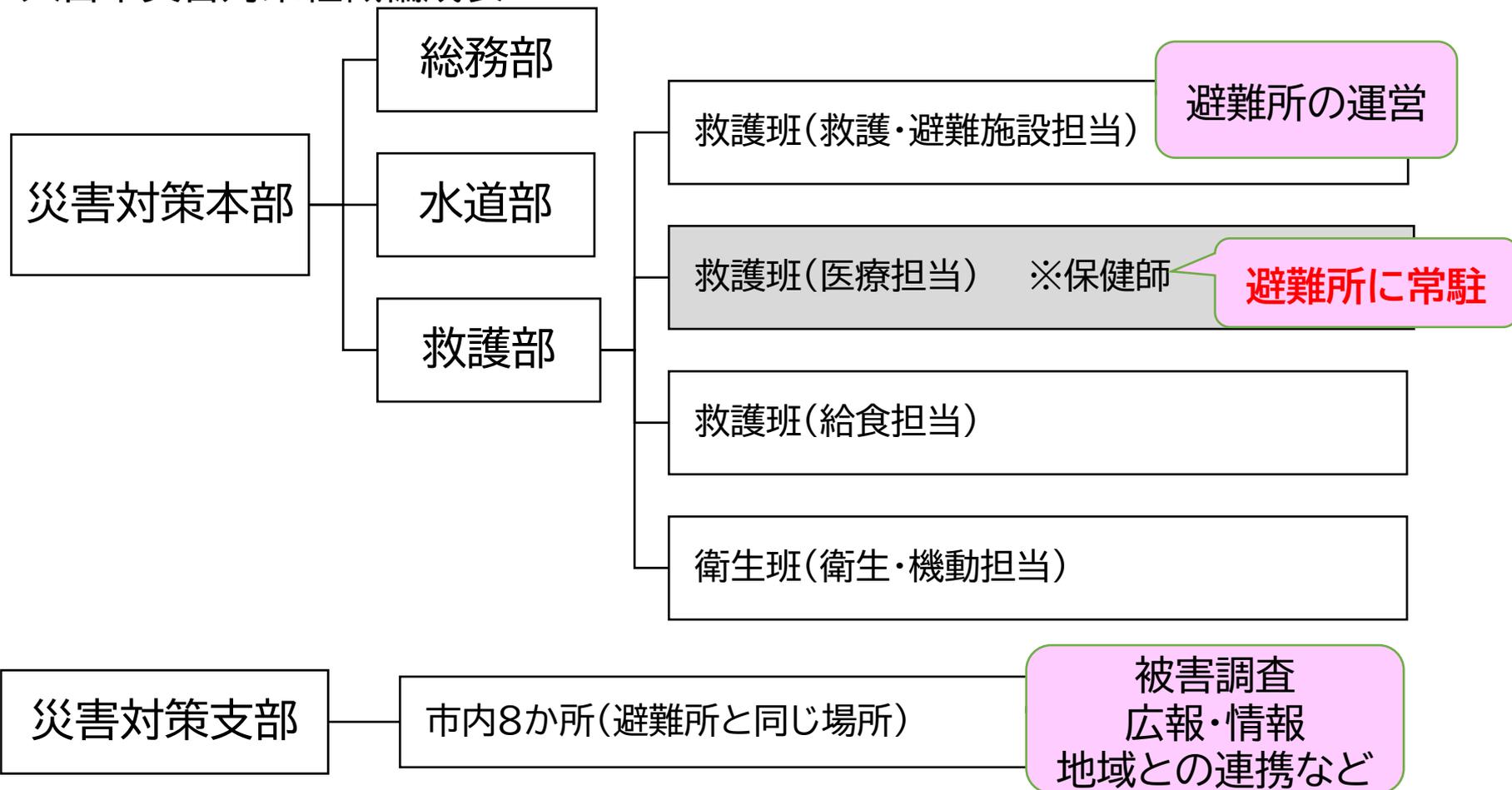
# 外部団体の動き

フェーズ	フェーズ0	フェーズ1	フェーズ2
日数	24時間以内	72時間以内	4日～1・2週間
月日	7月4日	7月5～6日	7月7日～7月17日
外部専門職 支援		【7/5】 DMAT(～7/31) 【7/6】 DPAT(～7/17) 日赤による救護所(～7/13) 熊本市保健師チーム対口支援(～8/10) 熊本県保健師チーム支援(～8/4) 【7/8】 看護協会:災害支援ナースによる支援(～8/10) 【7/11】 DHEAT(岡山県)による支援(～8/4) 熊本市管理栄養士(～8/5)・歯科衛生士(～7/31)支援 【7/13】 JRATによる支援(～8/22)	
苦慮した こと	・外部団体や支援機関との調整に、その都度時間を要した		

# 体制づくり①-1

## 発災時

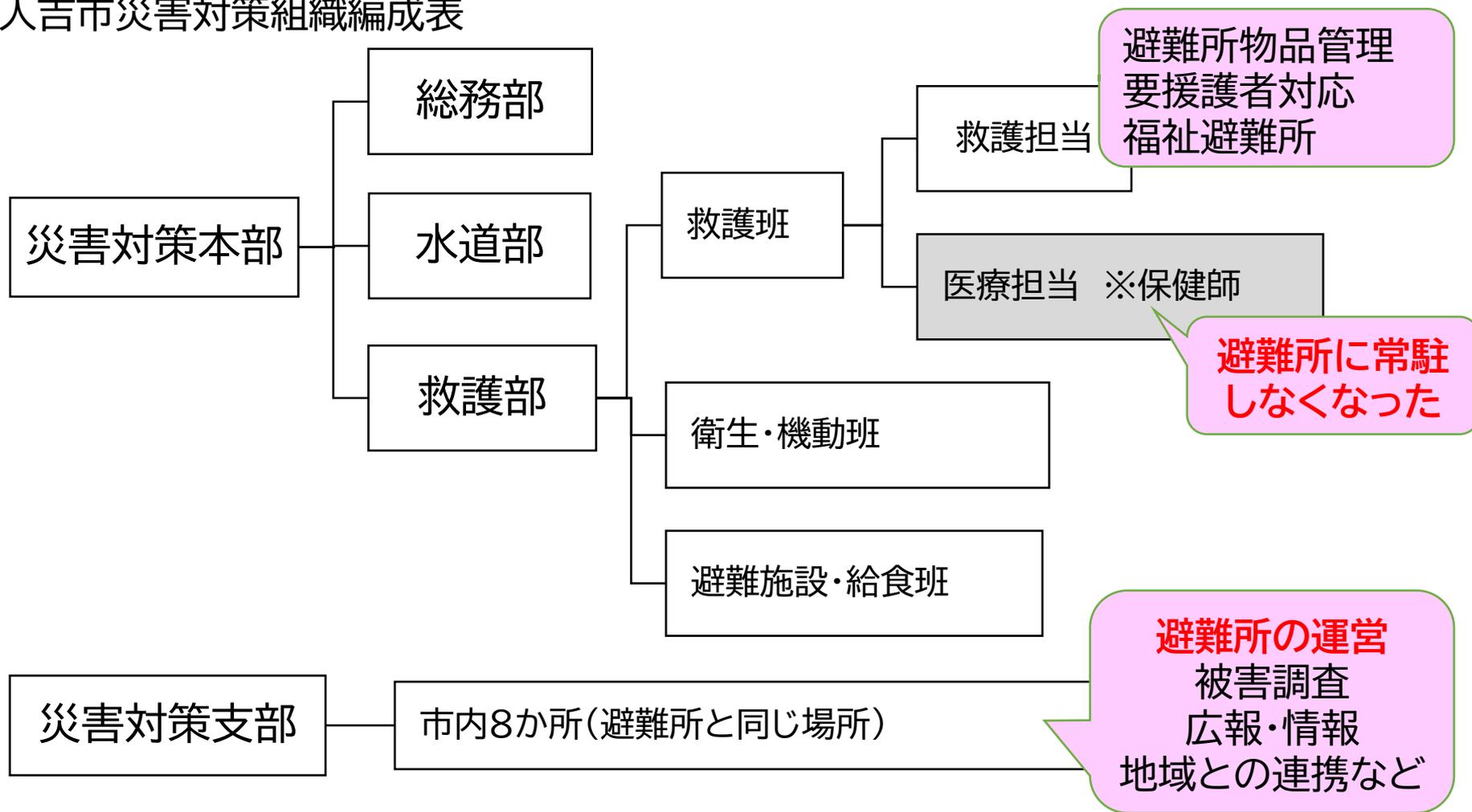
人吉市災害対策組織編成表



# 体制づくり①-2

現在

人吉市災害対策組織編成表



# 体制づくり①-3

## ①受援体制等調整

### 【主な業務】

- \* 災害対策本部会議(市役所)、災害時保健医療対策会議(保健所)出席
- \* 外部支援者との打合せ会開催(朝・夕)
- \* 外部関係機関との連絡調整(県・保健所・医師会・歯科医師会等)
- \* 避難所運営者へ必要なチラシ(感染症対策等)の提供
- \* 避難所医療班への指示・相談・助言等

など

指示・情報提供等

報告・相談等

保健師 4名

## ②避難所等での活動

### 【主な業務】

- \* 避難者の多い避難所へ、2交代で配置
- \* 保健師が常駐しない避難所は、巡回支援や要請時に対応
- \* 在宅被災者の健康調査等

## ③通常業務の再開

### 【主な業務】

- \* 母子保健事業等の延期連絡、再開に向けた協議、事業実施
- \* 窓口対応

保健師・看護師  
8名

# 体制づくり②

コロナによる  
緊急事態宣言



		4月	5月	6月	7月	8月	9月
3ヶ月児健診	個別	※小児科3ヶ所で実施				◆7/6被災した小児科1ヶ所で再開	
7ヶ月児健診	集団	延期	再開	再開	延期	◆8/18再開(2ヶ月分)	
1歳半健診		延期	再開	再開	延期	◆8/11、25再開	
3歳児健診		延期	再開	再開	延期	◆8/4再開(2ヶ月分)	
定期予防接種	個別	※小児科3ヶ所+内科4ヶ所で実施			※小児科1ヶ所+内科4ヶ所で再開		
育児相談		規模縮小	規模縮小	再開	◆7/14再開		
母子健康手帳、妊婦健診受診券交付		※個別交付			◆7/11~個別交付、再発行実施		
乳児家庭全戸訪問		※体調に留意し、実施			◆被災者に負担のない範囲で訪問		

産科・小児科と日頃から連携が取れていたことは、事業調整や再開に大きく影響した

## 体制づくり③

### ①スタッフ間の協議(梅雨時期前後の年2回)

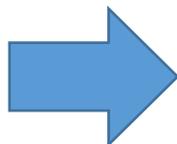
- \*保健活動に必要な物品の整備、確認
- \*避難所における保健師の役割等

### ②勉強会の開催(年1回) ※①と同時開催

- \*要援護者の対応、避難所様式等の把握、支援団体対応等
- \*アクションカード

### ③市災害時保健活動マニュアルの作成・共有

- \*水害と地震、2パターンの想定



従事する職員の力量を形成する

# アンケート結果から

豪雨発生時、妊産婦だった方を対象にアンケート実施

## 【概要】

対 象:令和元年7月1日～令和3年4月7日出生の子をもつ母親

方 法:郵送にてアンケート調査依頼を送付、メールでの回答

対象者数:345名に配布、109名から回答(回答率 31.6%)

実施時期:令和4年11月



## 【意見(自由記載)】

\*子どもを抱え、たくさんの避難物を持って出ることができなかった

\*子どももいると、避難所に長くいることができない

\*被災家族を受け入れたため、洗濯や食事の世話をしていたら夜中寝ることができなかった

\*フェイクニュースに惑わされ、支援物資を取りに行っても何もなかった

\*市外に一時避難したため、情報がなかった

\*かかりつけ産科医療機関が被災したため、病院が変わり、不安だった

# 行政機関としての備え(公助)①

乳幼児健診延期・再開

乳幼児避難所の開設状況

支援物資の配布

各種相談窓口等



お知らせしたい！  
(必要な方にダイレクト  
に情報発信したい)  
けれども…

電話回線が不通→不安定

郵便局が被災

避難所掲示板の有効活用に至ら  
なかった(乳幼児・妊婦の避難者  
が少ないため)

## 母子健康手帳の電子化(母子手帳アプリ)

- \* 登録者に配信できるため  
人吉市外にいても情報を受け取れる
- \* 迅速にお知らせができる
- \* 妊婦健診記録等を自身で登録しておく  
母子健康手帳が水没した場合でも、情報が残せる



何か使えるツールはないか？

# 行政機関としての備え(公助)②

## ホワイトボードにて情報共有

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
A						
B						
C						
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
A						
B						
C						

2週間電話	決定会議報告	BP
全戸訪問	対応中	5ヶ月児学級
終了	転出・出生未	3ヶ月児健診 7ヶ月児健診
		ケース管理会議

7.2cm

西間上町 人吉 花子 3/15 2.1cm

町名 妊婦氏名 予定日

※生まれたら、出生日に修正

- \* 母子健康手帳交付後(月2回)、氏名マグネット作成
- \* ホワイトボード撮影し
  - ①PCの庁内共有フォルダへ保存
  - ②プリントアウトし、キャビネット保管

災害時、

- \* おおまかな妊娠月齢(乳児月齢)・行政区・フォロー状況(色分け)が一覧でわかる
- \* 停電や通信遮断でも紙媒体で把握可能
- \* 保健センター以外の場所(庁舎等)でも閲覧可能

# 行政機関としての備え(公助)③

## 各避難所の乳幼児用救護物品



## 乳幼児避難所の開設

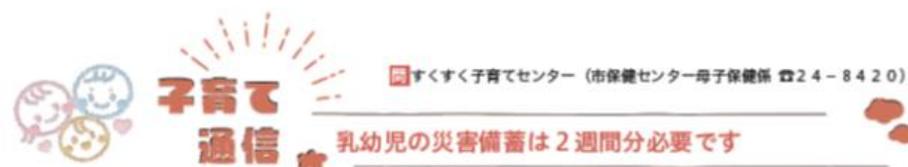


# 平時の備え(自助)①

## ①【高齢者等避難】には、こども・妊産婦も含まれることの周知

\* 早期避難の意識づけ(母子手帳アプリ等で配信)

\* 避難場所の確保呼びかけ



## ②避難時持出し必要品の周知

\* 母子健康手帳交付時

乳児家庭全戸訪問時

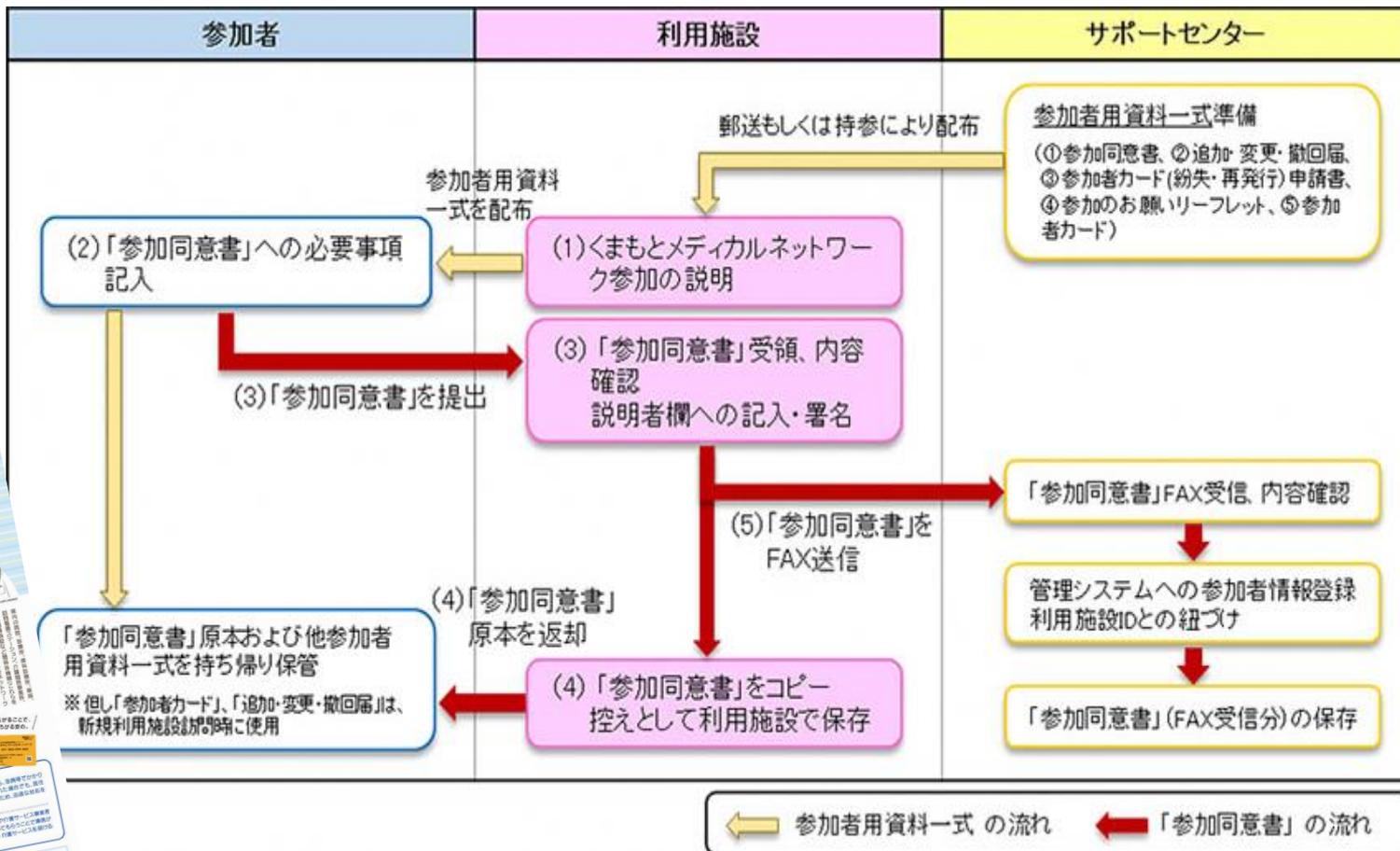
梅雨時期の広報等で紹介

令和2年7月豪雨から3年が経ちました。いつ起こるか分からない災害に備えて、家庭での備蓄は十分に用意していますか？ 小さい子どもの食料や飲料などは、災害時に手に入りづらくなる場合が多いため、少なくとも2週間分を備蓄しておくことをおすすめします。  
家族全員分の食料や飲料などは最低3日分を備蓄しておくといでしょう。

乳幼児用備蓄リスト(例)		ポイント
<input type="checkbox"/> 液体ミルク	<input type="checkbox"/> ガーゼ	●普段から食べ慣れたものを用意する
<input type="checkbox"/> 粉ミルク (キューブタイプ)	<input type="checkbox"/> (歯みがき用)	●多めに買い置きしておき、その中から日常的に消費。消費した分を買い足すと無理なく一定の備蓄ができる
<input type="checkbox"/> 飲料水 (軟水または赤ちゃん用)	<input type="checkbox"/> オムツ	
<input type="checkbox"/> ベビーフード	<input type="checkbox"/> おしりふき	
<input type="checkbox"/> 哺乳瓶 (使い捨て用も👉と便利)	<input type="checkbox"/> パスタオル	
<input type="checkbox"/> 紙コップ	<input type="checkbox"/> ビニール袋	
<input type="checkbox"/> 使い捨てスプーン		

# 平時の備え(自助)②

## くまもとメディカルネットワーク(熊本県医師会)



母子健康手帳交付時に説明、希望者に参加同意書の記入依頼

# 現在の人吉市

西瀬橋: 令和5年2月に全面復旧



コンテナマルシェ(飲食店舗)



災害公営住宅の建設  
(1団地は、R5年度中に供用開始予定)

\*建設型仮設団地の利活用(6箇所予定)



## 穏やかな球磨川の風景



国宝 青井阿蘇神社

出典：人吉市復興政策部秘書課

★全国の自治体、各種団体等の皆様からご支援を頂きましたことに感謝申し上げます。ご清聴ありがとうございました。